

国際生物学オリンピック日本委員会
委員長 浅島 誠

第32回国際生物学オリンピック日本代表決定

～ ポルトガル／リスボンを実施本部としてオンラインで開催する国際大会で、
世界の仲間と生物学を深める ～

国際生物学オリンピック日本委員会(委員長:浅島 誠)は、第32回国際生物学オリンピック(2021年7月19日から22日までの4日間、ポルトガル／リスボンを実施本部としてオンラインで開催されるIBO Challenge 2021 リモート大会)に派遣する日本代表4名および次点者2名を決定しました。

日本代表および次点者は、日本生物学オリンピック2020代替試験に参加した全国1,566名の受験者から選ばれました。

今後、大学教員や専門家も交えた国際生物学オリンピック日本委員会・プロジェクトチームによる特別教育を受け、7月の国際大会に臨みます。

第32回国際生物学オリンピック 日本代表(五十音順)

氏名	フリガナ	性別	在学学校(所在地)	学年
桐山 賢斗	キリヤマ ケント	男	東海高等学校(愛知県)	高2
佐藤 輝季	サトウ コウキ	男	武蔵高等学校(東京都)	高3
村井 皓太郎	ムライ コウタロウ	男	筑波大学附属駒場高等学校 (東京都)	高3
山形 祐介	ヤマガタ ユウスケ	男	東京都立多摩科学技術高等学校 (東京都)	高2

同 次点者(五十音順)

次点者2名は日本代表4名とともに代表団として同じ特別教育に参加し、日本代表に参加できない事由が発生した際には代わって国際大会の日本代表となります。

氏名	フリガナ	性別	在学学校(所在地)	学年
原 今日子	ハラ キョウコ	女	四天王寺高等学校(大阪府)	高3
三田村 大凱	ミタムラ タイガ	男	灘高等学校(兵庫県)	高2

国際生物学オリンピックは、世界の中等教育学校の生徒を対象にした生物学の国際的なコンテストです。生物学への関心を高め、参加者の才能を開花させるとともに、各国の生物学教育について情報を交換したり、生物学を学ぶ若者の国際交流を促進するために毎年開催されています。1990年の第1回大会(旧チェコ・スロバキア/オルモウツで開催)から数えて第32回となる2021年の国際大会はポルトガル／リスボンを実施本部としてオンラインで開催されます。

日本代表の抱負

桐山 賢斗 東海高等学校(愛知県)

1年間、生物学オリンピックのためにずっと勉強してきたので、代表に選んで頂いたのは、とても嬉しいです。日本代表になったからには、IBO でも良い成績を収められるように、全力を尽くしていこうと思います。

佐藤 輝季 武蔵高等学校(東京都)

この困難な状況の中、国際生物学オリンピックに参加させて頂けることを有難く思います。頂いたこの機会を楽しみながら努力しようと思います。

村井 皓太郎 筑波大学附属駒場高等学校(東京都)

憧れていた舞台に立てることをとてもうれしく思っています。国際大会に向けて、生物学をより一層深く学んでいきたいです。そして何より楽しみたいと思います。

山形 祐介 東京都立多摩科学技術高等学校(東京都)

日本代表に選んでいただき嬉しく思います。良い結果が得られるよう全力で取り組みます。

<問い合わせ先>

国際生物学オリンピック日本委員会 (JBO)

総務担当：鳩貝

東京都千代田区北の丸公園 2 番 1 号科学技術館内

E-Mail : jbo@jsf.or.jp URL : <http://www.jbo-info.jp/>

公益財団法人日本科学技術振興財団 人財育成部 橋山

TEL 03-3212-8518 FAX 03-3212-7790

参考資料

■ 国際生物学オリンピック(International Biology Olympiad : IBO)について

国際生物学オリンピック(IBO)は生物学に関心を持つ中等教育学校の生徒を対象とした国際的なコンテストです。

- ・生物学の問題や実験に挑戦し、生物学への興味と創造性やねばりづよさを競う。
- ・参加する生徒の能力を伸ばし、科学者への道に導く。
- ・生物学を学ぶ生徒どうしの国際的交流の機会をあたえる。
- ・生物学教育に関するアイデアと教材の国際的な交換を推進する。

これらを目的に 1990 年に旧チェコ・スロバキアのおロモウツで第 1 回大会が開催されて以来、毎年開催国を持ち回りにより開催されています。

コンテストは、生物学に関する理論課題試験と実技課題試験によって競われます。また、それだけでなく、参加者同士の国際的交流をはかることも重要な要素とされています。毎年 7 月に開催される大会には、各々の国内選考を経て選ばれた 4 名の代表生徒と引率役員が各国・地域から参加します。

■ 国際生物学オリンピックにおける日本代表の成績

開催年	開催数	開催国	開催期間	参加国地域	参加者数	日本代表(4名)の成績
2005年	第16回	中国／北京	7月10～17日	50	198名	銅メダル 2名
2006年	第17回	アルゼンチン／リオクアルト	7月9～16日	47	198名	銅メダル 3名
2007年	第18回	カナダ／サスカトゥーン	7月15～22日	49	192名	銀メダル 1名 銅メダル 3名
2008年	第19回	インド／ムンバイ	7月13～20日	55	220名	銀メダル 3名 銅メダル 1名
2009年	第20回	日本／つくば	7月12～19日	56	221名	金メダル 1名 銀メダル 3名
2010年	第21回	韓国／昌原(チャンウォン)	7月11～18日	58	233名	金メダル 1名 銀メダル 3名
2011年	第22回	台湾／台北	7月10～17日	58	229名	金メダル 3名 銀メダル 1名
2012年	第23回	シンガポール	7月7～14日	59	234名	銀メダル 4名
2013年	第24回	スイス／ベルン	7月14～21日	62	240名	金メダル 1名 銀メダル 3名
2014年	第25回	インドネシア／バリ島	7月6～13日	61	239名	金メダル 1名 銀メダル 3名
2015年	第26回	デンマーク／オーフス	7月12～19日	61	239名	金メダル 1名 銀メダル 2名 銅メダル 1名
2016年	第27回	ベトナム／ハノイ	7月17～24日	68	263名	金メダル 1名 銀メダル 3名
2017年	第28回	イギリス／コヴェントリー	7月23～30日	64	241名	銀メダル 4名
2018年	第29回	イラン／テヘラン	7月15～22日	71	269名	銀メダル 2名 銅メダル 2名
2019年	第30回	ハンガリー／セゲド	7月14～21日	72	285名	銀メダル 2名 銅メダル 2名
2020年	第31回	日本/東京・オンライン開催	8月11～12日	53	202名	金メダル 1名 銀メダル 3名

2021年	第32回	ポルトガル／リスボン	7月19～22日	https://ibo2021.com/
-------	------	------------	----------	---

■ 日本生物学オリンピック2020代替試験（今回の日本代表が選ばれた国内大会）

国際生物学オリンピック日本代表選考を兼ねる「日本生物学オリンピック」は、20歳未満で大学入学前の青少年を対象とした、全国規模の生物学に関するコンテストです。日本生物学オリンピック2020の予選と本選は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止し、代替試験としてオンラインでの一次試験を実施し、その成績上位120名に対して二次試験を実施し、高校2年生以下の成績優秀者12名を日本代表候補者と認定しました。最終選考は緊急事態宣言が延長されたために中止し、その中の成績優秀者が今回の代表4名および次点者2名に選抜されました。

	日程・会場等	対象
代替試験 一次試験	日程:2020年11月1日 会場:CBTによるリモート試験	受験者数 1,566名
代替試験 二次試験	日程:2020年12月20日 会場:全国19カ所の会場で同時開催	予選の成績で選ばれた120名
最終選考	日程:2021年3月22日 緊急事態宣言が発出中のため中止	二次試験で選ばれた12名

■ 日本生物学オリンピック2021(次回の国際大会日本代表選考を兼ねた国内大会)

2022年7月にアルメニア／エレバンで開催される第33回国際生物学オリンピック日本代表選考を兼ねる日本生物学オリンピック2021は、5月1日より参加申し込みを受け付けます。

詳しくは、ウェブページでご案内しています。JBOウェブページ:<http://www.jbo-info.jp/>

	日程・会場等	参加対象
予選	日程:2021年7月18日 会場:CBTによるリモート試験	20歳未満で大学等に入学する前の、おもに高校生・中学生
本選	日程:2021年9月18日～19日(1泊2日) 会場:慶應大学鶴岡キャンパス(山形県鶴岡市)	予選の成績で選ばれる約60名
代表選抜試験	日程:2022年3月20日 会場:科学技術館(東京都千代田区)	本選までの成績で選ばれる約15名

■ 国際生物学オリンピック日本委員会(Japan Biology Olympiad Committee: JBO)

国際生物学オリンピック日本委員会は、日本国内において日本生物学オリンピックを開催し、国際大会に派遣する日本代表を選考するための三次にわたる試験を行うとともに、日本代表団を組織し、国際大会へ引率派遣しています。日本生物学オリンピックでは先端的な生物学研究にふれる機会を提供するなどして、高等学校等の生徒に対し、生物学への興味の喚起と知識の普及を図りつつ、広く科学技術一般への関心の向上と理解の増進を推し進めています。日本代表生徒の国際大会への参加体験は、将来の日本の科学技術を支える人材の育成にも役立つと期待しています。さらに、教育関係者の国際的な交流を促進し、日本の生物学教育の充実・発展に寄与することも同時に目指しています。

以上